北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	観光研究ゼミナールIII	科目コード	1235	単位数	2
担当者名	伊藤　寛幸	開講セメスター	第6セメスター	開講年次	3年次
授業の方法	演習	到達目標	F,H	実務経験	無
ナンバリング	LSe603	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

観光学を幅広く修めようとする学部生にとって、学術論文の読解力、作成能力およびプレゼンテーションスキルは不可欠である。本ゼミでは、観光学にかかわる専門知識を用いたプロジェクトの遂行および学会での口述発表の場で活躍できる高度な専門技術者の育成を目指す。

到達目標

1.学術論文を読解することができる。
2.学術論文を作成することができる。
3.学術論文の内容を口述発表することができる。
4.円滑なコミュニケーションを図ることができる。

授業内容

1週目 講義内容の概要説明およびゼミの進め方の説明
2週目 観光に関連する研究課題の設定方法の習得
3週目 各自設定した観光関連研究課題のプレゼンテーション
4週目 「レポート」と「学術論文」との相違点の習得
5週目 「学術論文」構成（起承転結）の習得
6週目 「学術論文」構成のうち、「序論（Introduction）」の書き方の習得
7週目 「学術論文」構成のうち、「材料（Materials）」の書き方の習得
8週目 「学術論文」構成のうち、「方法（Methods）」の書き方の習得
9週目 「学術論文」構成のうち、「結果（Results）」の書き方の習得
10週目 「学術論文」構成のうち、「考察（Discussion）」の書き方の習得
11週目 「学術論文」構成のうち、「結論（Conclusion）」の書き方の習得
12週目 「学術論文」検索方法および検索結果整理の習得
13週目 参考文献および引用文献の記述方法の習得
14週目 研究課題の口述発表および質疑応答
15週目 研究課題の口述発表および質疑応答に対する講評
16週目 ゼミ全般に対する講評。ただし、やむを得ず15週目までの講義が実行できなかった場合に補講授業を実施。

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：各週の講義において、講義内容から想定される観光関連情報について、テレビ、新聞、インターネットなどのメディア等からデータを収集するなどの事前準備を行う（90分程度）。
復習：各週の講義において、課題解決に向けて話題となった観光に関連する情報を収集整理し、講義を振り返る（30分程度）。

成績評価の方法・基準

ゼミにおけるプレゼンテーション40%、学術論文執筆60%

履修上の留意点

・学術論文の執筆リテラシーに必要な教科書の輪読も同時に課す。
・報告者以外のゼミ生についても資料を精読のうえで、論点を整理し討議に積極的に参加すること。
・成績評価は、全講義の2/3以上出席した学生を対象とする。
・連絡はLMSを介して行うことがあるので、常時LMSを確認のこと。
・欠席した場合あるいは欠席する場合は「欠席届」を提出すること。欠席届を提出しない欠席は無断欠席として、欠席1回あたり10点の減点とする。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題（研究課題）に対して、コメントを付して結果（点数）を本人に通知するなどフィードバックを行う。

テキスト

初回開講時に、学術論文の執筆リテラシーに必要な輪読用の教科書を指定する。

参考書

佐藤洋一編著『科学技術英語論文　英借文用例辞典』（オーム社）4,180円

更新日付

2026/02/25 03:01